

豊橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会 評価部会での主な意見

平成 30 年 7 月 23 日（月）に豊橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会 評価部会を開催しました。そこでの主な意見は以下のとおりです。

○産業振興

- ・新規事業は増えている一方、廃業している人も多い。事業を承継したい人と後継者となり得る人とのマッチング支援のようなことが必要ではないか。市が行う支援と民間が行う支援を、役割を分けて行えると良い。
- ・農業を観光資源として活用できないか。この地域は全国でも有数の農業地帯であり、植物工場等の先進的な施設もあるので、施設見学や農業体験を通じて地域のことを知ってもらえるし、インバウンドにも使える。こういった情報を東三河地域で協力して発信して欲しい。

○子育て支援

- ・子どもが欲しくてもできない人が増えている。不妊治療にはお金も時間もかかるので、そこへの支援を充実させてほしい。また、支援があることを知らない人も多いと思うので、必要な人に伝わるよう周知してほしい。
- ・豊橋の子育て施策はバラバラに情報発信しているように見える。例えば、この街でどうやって子どもを育てていくのかが、ライフステージに沿ってストーリーとしてわかると、安心して子育てできると感じてもらえる。
- ・地方創生が始まって3年経ち、全国の自治体が色々な取組みを行っている。出生率の減少が少しでも上向いている自治体の状況を調べ、豊橋市と比較してはどうか。

○学生に対する情報発信

- ・多くの学生は、豊橋市がどのような施策を行っているか知らない。Instagramやフェイスブックなどで情報を発信しているが、情報が個々にしっかり伝わっているのか、効果的に届けられているのかを考えていく必要がある。
- ・3度ほど大学生向けの企画を実施したが、この地域に住んでいない大学生もいるため、大学生に興味を持ってもらうのは非常に難しいと感じた。他方、高校生はこの地域に住んでおり、また、人数も大学生より多いため、高校生をターゲットに情報発信した方が効率的に周知できるのではないか。

○移住・定住

- ・ある自治体では、定住促進のために住宅取得の補助を行ったところ多くの人が活用し、空き家の活用にまでつながっているとのこと。「豊橋市に住むメリットはこれだ」と言えるような施策があると良い。例えば、立地適正化計画において、居住誘導区域に住むことによるインセンティブを設けてはどうか。
- ・毎年人口の1%の人数を呼び込めれば、人口の維持及び高齢化が抑えられる「1%戦略」という考え方がある。豊橋市なら毎年約4,000人呼び込むことが出来れば、人口が維持できることになる。